

ふくしま国際医療科学センターの歩みと今後に向けた取組

<ダイジェスト版>

〈設置理念〉

復興に関わる全ての人との絆を大切にし、医療を通じて震災・原発事故からの福島復興と光り輝く魅力的な新生福島の創造に貢献する

〈使命〉

- ・県民に寄り添い、健康を見守り、将来にわたり安全・安心を確保する
- ・医療関連産業の創出・発展により、新たな雇用を創出し、地域社会を復興・活性化させる
- ・福島復興から得られた教訓と英知で日本さらには世界に貢献する

〈理念、使命実現のための取組〉

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| ①放射線影響に関する長期的な健康管理調査事業の着実な推進 | ⑥生活習慣病を始めとした様々な疾患の最先端治療体制の充実 |
| ②放射線影響に関するリスクコミュニケーションの確立と継続実施 | ⑦災害・被ばく・救命救急医療体制の確立 |
| ③健康的な生活を送るための啓発・予防の推進 | ⑧医-産連携推進による医療関連産業の創出・誘致・支援 |
| ④国際連携拠点の創設 | ⑨被ばくを含む災害医療及び地域医療に資する次世代の医療人の育成 |
| ⑤最先端の医療機器を活用した早期診断体制の充実 | ⑩県民と日本、そして世界に対する積極的な広報 |

〈3つのコンセプト〉

- ①県民の健康の見守り ②先端研究の推進と産業復興 ③高度医療の提供

各センター・部門の取組・成果

県民の健康の見守り

放射線医学県民健康管理センター

取組・成果

- ・県民健康調査（基本調査と4つの詳細調査）を推進し、調査結果に基づき必要な支援を実施
- ・基本調査では外部被ばく線量の概要を明示
- ・甲状腺検査では、原発事故と甲状腺がんとの因果関係等に関する知見を提示
- ・健康診査では避難生活による健康影響について明示
- ・こころの健康度・生活習慣調査では県民のこころとからだの健康状態と生活習慣を把握
- ・妊産婦調査では低出生体重児や先天奇形の発生率等が全国平均等と大きく変わらないことを確認

ふたば医療支援

取組・成果

- ・双葉地域の二次救急医療確保を支援（ふたば医療センター附属病院への医師派遣）、管内搬送率が震災前の状況（約63%）近くまで回復
- ・多目的医療用ヘリに搭乗する医師を派遣し、救急医療の質の向上に寄与
- ・双葉地域の広域的な総合医療支援（双葉8町村の重症化予防対策、認知症対策等）

健康増進センター

取組・成果

- ・福島県版健康データベース（FDB）に格納されているデータを評価・分析
- ・県健康づくり施策への助言・支援、市町村の事業展開の支援
- ・循環器疾患発症登録におけるデータ化及び分析報告書の作成
- ・保健師等を対象とした研修会・公衆衛生医師育成研修の実施、健康づくりの重要性を啓発するイベントへの出展及び実施（いきいき健康づくりフォーラムには、平均2千人超の入場者）

先端研究の推進と産業復興

医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター（TRセンター）

取組・成果

- ・がんを中心とした諸疾患の新規治療薬・診断薬・検査試薬などの開発支援
- ・ベンチャー企業による産業集積を進め、TRセンターに関係するベンチャー3社に、福島医大発ベンチャー称号を授与

先端臨床研究センター

取組・成果

- ・年間3,000件超のPET検査を実施
- ・脳腫瘍やてんかんの新たな診断法確立に向け、他大学と共同で治験を実施
- ・がん治療に有効とされる放射性薬剤の開発の実施

高度医療の提供

先端診療部門

取組・成果

- ・災害医療や救急医療に対応できる高度救命救急センター機能の強化
- ・「こども医療センター」を整備し、15歳未満の患者を対象に診療科横断的に診療（PICUを4床から6床に増床）
- ・放射性薬剤を内服して悪性腫瘍の治療を行うRI病床を備えるとともに、患者の立場から考えた療養に専念できる環境を整備

甲状腺・内分泌センター

取組・成果

- ・内分泌疾患について、人生設計に即した治療体制の確立
- ・カンファレンス開催による多診療科間の情報共有と協力体制の促進（グランドカンファレンスには、12の主な診療科が参加）
- ・甲状腺検査で診断される方に対する内科系・外科系の診療科による最適な医療の提供

教育・人材育成部門

	放射線健康管理学講座	甲状腺内分泌学講座	災害こころの医学講座	放射線腫瘍学講座	腫瘍内科学講座	放射線災害医療学講座	疫学講座	健康リスクコミュニケーション学講座	放射線生命科学講座	放射線物理化学講座	大学院医学研究科修士課程 災害・被災医療科学共同専攻
取組・成果	・放射線健康リスクと原子力複合災害に関連する健康課題に関する問題解決型の人材育成 など	・長期的な甲状腺検査を実施するための専門家と、その指導者の人材育成 など	・震災と原発事故に伴う心理的影響に関する調査研究と、関係する専門職の教育及び人材育成 など	・最先端の放射線治療を受けられる体制の整備 ・良質な放射線治療専門医の育成 など	・患者の不安に寄り添う診療体制、安全な外来がん化学療法の実施、がんゲノムパネル検査の実施 など	・放射線影響に関するリスクコミュニケーションの確立 ・国際連携拠点の創出 など	・県民健康調査の実施、解析の支援 ・県内地域の健康づくりへの貢献 など	・健康リスクの把握と住民らとの対話をもって対策を進めるための研究と、それらの対策を地域で実践できる人材の育成 など	・低線量域における被ばくモニターの開発やリンパ球を中心とした遺伝子（染色体）解析 など	・事故由来の被ばく線量評価 ・自然放射線による被ばく線量やその変動の評価 など	・長崎大学と共同で、発災から復興期まで長期にわたって幅広く活躍できる人材の育成

各センター・部門の課題

県民の健康の見守り

放射線医学県民健康管理センター

課題

- ・調査結果を踏まえた住民支援の更なる充実と、長期的な視点に立った県民の健康の見守りが必要
- ・県民の不安に寄り添うとともに、放射線の影響について科学的に正しい情報を発信することが必要

ふたば医療支援

課題

- ・外部支援医師も含めた、派遣する医師の確保について、県とともに検討することが必要
- ・帰還住民や県内避難者の健康づくりに必要な支援について、より一層の双葉郡8町村との連携が必要

健康増進センター

課題

- ・FDBに格納されるデータの量・質が今後ますます拡充していくことから、分析をより充実したものとし、県及び市町村が活用できるものとする必要がある
- ・循環器疾患発症登録について、県内の医療機関の協力が継続して得られるよう働きかけを強める必要がある

先端研究の推進と産業復興

医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター（TRセンター）

課題

- ・各部門のベンチャー企業等としての独立を計画的に促進
- ・センターのスリム化による経費節減と、運営費財源の確保

先端臨床研究センター

課題

- ・候補薬を社会に実装するノウハウは乏しいため、企業と連携した研究開発が必要

高度医療の提供

先端診療部門

課題

- ・生殖医療センターのさらなる機能の向上
- ・総合周産期母子医療センター、こども医療センターにおけるハイリスク患者への対応のための診療体制の充実・強化

甲状腺・内分泌センター

課題

- ・診療科間の連携強化と、甲状腺・内分泌疾患のすべてを対象とする連携体制の構築
- ・専門的能力と資格を有する人材の育成と確保

教育・人材育成部門

課題

放射線健康管理学講座	甲状腺内分泌学講座	災害こころの医学講座	放射線腫瘍学講座	腫瘍内科学講座	放射線災害医療学講座	疫学講座	健康リスクコミュニケーション学講座	放射線生命科学講座	放射線物理化学講座	大学院医学研究科修士課程 災害・被ばく医療科学共同専攻
・原発事故に伴う地域住民への健康影響に関する詳細な解明と知見のさらなる集積 など	・検査技術の維持・向上のための効果的な検査の取組方法の検討 など	・被災者への中長期的支援や、専門職支援者の育成・復興従事者へのメンタルヘルス対策 など	・マンパワー不足（医師、医学物理士、放射線技師）	・In house 研究活動の活性化 ・医師の人的リソースの不足	・個人に依存しない体制の構築 ・国際連携体制の構築 など	・避難区域住民のリスク改善等のための解析及びアドバイス等の実施 など	・放射線リスクコミュニケーションの更なる強化 など	・生物学的線量評価につながる迅速正確な解析のため、AIを用いた自動解析ソフトの開発	・高度被ばく医療支援センター等の機能の維持強化の一端を担うなど、講座を取り巻く変化への対応	・入学者数の安定確保

今後の取組方針

- ふくしま国際医療科学センター基本構想に掲げた設置理念や使命の継承
- 「県民の健康の見守り」、「先端研究の推進と産業復興」、「高度医療の提供」に向けた取組や各センター等を支える人材育成の継続と、復興の段階に応じて生じる課題等への対応
- 避難地域等の復興に保健・医療の面から貢献
- 福島復興から得られた教訓と知見を積極的に情報発信

震災と原発事故から得た経験・知識は、
世界の人々にとっても共有すべき貴重な財産であり、
後世に残していかなければならない。



ふくしま国際医療科学センターに課せられた使命を達成できるよう、
たゆまぬ努力を続けていく。

各センター・部門の今後の取組方針

県民の健康の見守り

放射線医学県民健康管理センター

- 今後の取組方針
- ・検討委員会でとりまとめた今後の方向性を踏まえた各調査の着実な実施と、ニーズに添った住民支援の強化
 - ・県民健康調査で得られた知見を基に、放射線の影響について科学的に正しい情報を国内外に伝えるための効果的な情報発信と啓発活動の展開

ふたば医療支援

- 今後の取組方針
- ・ふたば医療センター附属病院への円滑な医師派遣
 - ・各町村のニーズを把握し、ふたば医療センター附属病院や県の関係部署との連携を図りながら、帰還住民等の健康づくりを支援

健康増進センター

- 今後の取組方針
- ・FDBの分析結果を取りまとめた年次報告書の充実と、学術論文の作成
 - ・県及び市町村の要望に沿った健康データ分析に応じることができるような態勢の整備
 - ・循環器疾患発症登録の内容を医療機関に広く提供し、重要性の理解を得て協力が得られるよう働きかけを強化

先端研究の推進と産業復興

医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター（TRセンター）

- 今後の取組方針
- ・2024年度までに、ほとんどの部門についてベンチャー化又は福島TR財団への委託化
 - ・現行プロジェクトの研究成果等を活用し毎年2億円を超える事業収入の確保
- など

先端臨床研究センター

- 今後の取組方針
- ・PET検査体制の維持
 - ・海外で既に使用されている有用な診断薬を国内で使用するための研究開発
 - ・現在開発中の放射性薬剤について、実用化に向けた製薬企業との連携

高度医療の提供

先端診療部門

- 今後の取組方針
- ・県内市町村や保健福祉事務所等と連携し、専門的かつ高度な不妊治療を提供
 - ・総合周産期母子医療センター等の体制充実を図るなど、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに貢献

甲状腺・内分泌センター

- 今後の取組方針
- ・甲状腺・内分泌疾患の集学的診療の実践に寄与するために診療科間の連携強化
 - ・甲状腺・内分泌診療を通して教育の機会を増やし、将来、甲状腺検査および内分泌診療に専門家として従事する人材を育成

教育・人材育成部門

	放射線健康管理学講座	甲状腺内分泌学講座	災害こころの医学講座	放射線腫瘍学講座	腫瘍内科学講座	放射線災害医療学講座	疫学講座	健康リカバリー学講座	放射線生命科学講座	放射線物理化学講座	大学院医学研究科修士課程 災害・被ばく医療科学共同専攻
今後の取組方針	・原発事故後の健康影響について、国内・国外に広く発信 ・地域住民の健康データの解析と分析の結果を、地域と対話しながら還元することのできる人材の育成	・放射線に対する甲状腺への影響を系統的に、長期にわたって検証 ・甲状腺専門家の育成、甲状腺専門医の多地域への派遣	・今までの復興の足取りを総括 ・県民健康管理センター及びふくしま心のケアセンターへの積極的な支援 ・新型コロナウイス・パンデミックをはじめ他の災害時におけるメンタルヘルスケア手法の確立	・高精度放射線治療の更なる積極的な活用 ・免疫療法併用放射線治療について、医師主導臨床試験とトランスレーショナル研究を積極的に行い、先端のがん治療法の開発・研究を推進	・並行して実施できる研究課題の立案と、学内診療科等との連携 ・少人数チームによる研究実施 ・将来的な活動基盤を作るため、学生・研修医や市民に腫瘍内科を周知する活動	・福島第一原発をフィールドとしたハザードの存在下における医療の習得コースの開拓 ・放射線治療分野などと連携した新しい視点の研究模索	・避難区域住民の健康増進に寄与できる解析等の推進 ・広く災害と疾病との関連を分析するための疫学的手法を取り入れた教育	・災害後における社会的心理的な健康リスク要因の解明と、課題解決策の提示、社会に実装する調査・研究の実施 ・地域内の課題解決に関する科学的知見を国内外に発信でき、地域内の協働をもって解決を促すことのできる人材の育成	・甲状腺がんの発症が放射線被ばくの影響か検証 ・染色体解析を用いた生物学的評価部会のネットワークに医療技術者を含めた講座の全教官を参加させることによる技術の維持向上	・県民健康調査で評価されていない自然放射線被ばく、現在から未来に至るまで続く事故由来の被ばくに焦点を当てた研究 ・論文のみならず講座のホームページを通じた情報発信	・災害・被ばく医療科学分野全般を俯瞰できる幅広い知識を習得し、活躍できる素養を持った専門家や長期にわたる健康被害に適切に対応できる人材の育成